

## 「おもしろい」のその瞬間を

2年 小林 ころこ

「第9回 新潮文庫ワタシの一行大賞」で大賞を受賞しました。私があるものに触れて感じたこと、考えたことをそのまま綴った文章が、他の誰かの心に響いた。そのことに驚き、とても感動し、嬉しく思いました。

「明るい夜に出かけて」。この本の著者である佐藤多佳子さんの作品を私が初めて読んだのは小五の時、「一瞬の風になれ」という小説でした。私が大好きな作品の一つです。今回このコンクールに応募するに当たって本を選んでいいる際、佐藤多佳子さんの名前をきっかけにこの本を手に取りました。深夜のコンビニアルバイトや実在のラジオ番組を題材とし、若者たちの孤独と繋がりを描いた物語です。馴染みのない題材でしたが、私は本当にたくさん笑い、たくさん泣くことを考え、心が何度も揺り動かされました。私が選んだ一行はその一つに過ぎません。そうやって様々なことを考え、この本を読み終わった時、私はただとにかくおもしろかった、この世界が好きだった、そう思いました。純粹にそう思える瞬間というのは、私にとって、読書をする上での一つの大きな醍醐味です。もつとたくさんさんの「その瞬間」に出会えるような小説に挑戦していこうと思います。



放送委員としても活躍している小林さん

## 第9回 新潮文庫ワタシの一行大賞 大賞受賞作

選んだ一冊

佐藤多佳子『明るい夜に出かけて』

選んだ一行

アブクのような約束でも欲しい時があるのかな。

まだスマホも持っていない幼い頃、転校してしまう友達と「きつとまた会おうね」と言った。県外へ進学する姉と「コナンの映画は毎年一緒に見ようね」と言った。全国の舞台で会えた憧れの人と「またこうして会いましょう」と言った。果たされた約束、果たされなかった約束。そして、これからどうなるのか誰にもわからない約束。先のことなんて、結局誰にもわからない。ならば、果たされない約束はすべて無意味なものなのだろうか。

軽い気持ちでする約束は、そこに少しの本気を混ぜて口にする。そんな淡い約束でも、ふと思いついては支えられた。強くなれた。相手にとってもそうであればいいと思った。ちよっぴり元気になる約束があること。その約束をする相手がいること。それがどれほど有り難いことであるか。先のわからない約束でも、無意味なんてことはない。そう、この言葉が伝えてくれた気がした。

※「ワタシの一行大賞」について  
～新潮社公式ウェブサイトより～

「中高生のためのワタシの一行大賞」は、好きな一冊から、気になった一行を選び、その一行に関する「想い」や「エピソード」を記述する、新しいかたちの読書エッセイコンクールです。

「ワタシの一行大賞」公式ウェブサイト <https://www.shinchosha.co.jp/1gyou/>

有限会社 武藤工芸鋳物

専務取締役 武藤 元貴

(平成20年卒)



オーダーメイドホットサンドメーカー

〒010-0822 秋田市添川字境内川原 228-5  
TEL 018-832-5329 / FAX 018-832-5728

秋田の味噌・醤油



代表

菅原 美美 菅原 桂樹  
(平成20年卒) (昭和51年卒)

フジハル醸造元 菅原春吉商店

秋田県潟上市昭和大久保字北野台洲野湯端32  
電話/FAX 018-877-2558

社会保険労務士法人  
秋田労務行政事務所

特定社会保険労務士  
土田 将勝  
(平成10年卒)

〒010-0001  
秋田市中通4丁目1-2 秋田スクエアビル4F  
tel : 018-835-2388  
fax : 018-835-3709  
e-mail: aktroumugyousei@eagle.ocn.ne.jp  
website <https://akita-roumugyousei.com>

株式会社あきたこまつアニマルサービス

あきたこまつ動物病院

手形病院 秋田動物CTセンター 御所野病院



代表取締役 院長

小松 亮 (平成10年卒)